

令和7年度「ちば」の文化芸術発信事業
千葉県文化会館リニューアル記念事業



撮影:細野香司

二人三番叟・MANSAIボレロ



演目

「二人三番叟」

三番叟 野村 裕基、中村 鷹之資

笛 竹市 学
小鼓頭取 飯田 清一
脇鼓 住駒 匡彦、森 貴史
大鼓 亀井 広忠

長唄素演奏「勧進帳」

邦楽囃子 望月太左乃 ほか

亡き王女のためのパヴァーヌ 作曲/M.ラヴェル
マ・メール・ロワ 作曲/M.ラヴェル

千葉交響楽団

「MANSAIボレロ」 作曲/M.ラヴェル 振付/野村萬斎

野村 萬斎

指揮 山下一史
管弦楽 千葉交響楽団



野村 萬斎



野村 裕基



中村 鷹之資



望月 太左乃



山下一史



千葉交響楽団

令和8年
3月20日(金・祝)
14時開演(13時30分開場)
千葉県文化会館 大ホール

全席指定

一般 S席:3,000円、A席:2,500円
大学生以下:無料 ※未就学児の入場は
ご遠慮ください。

プレイガイド

千葉県文化会館 — 043-222-0201
青葉の森公園芸術文化ホール — 043-266-3511
千葉県東総文化会館 — 0479-64-2001
千葉県南総文化ホール — 0470-22-1811

インターネット予約
<https://yyk1.ka-ruku.com/cbs-s/showList>



主催:千葉県

企画運営:  公益財団法人
千葉県文化振興財団

千葉県文化会館は、令和5年4月から2年3か月におよぶ改修工事を経て、昨年7月13日に新たにリニューアルオープンを迎えました。
この度リニューアル記念事業として、「二人三番叟・MANSAIボレロ」を皆様にお届けいたします。初番に狂言師・野村裕基と歌舞伎俳優・中村鷹之資による「二人三番叟」を披露します。この二人の組合せは滅多に観ることのできない演目です。さらにその三番叟をイメージして振り付けられた野村萬斎のオリジナル作品「MANSAIボレロ」を披露します。千葉県出身の望月太左乃らによる邦楽演奏、千葉交響楽団による演奏など和と洋の芸術が響きあう、華やかなプログラムをお届けします。



PROFILE (プロフィール)

野村 萬斎【狂言師】

1966年生。祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定保持者。東京藝術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国内外で多数の狂言・能公演に参加する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、舞台『敦・山月記』『名人伝』『マクベス』『子午線の祀り』『能 狂言『鬼滅の刃』『ハムレット』ははじめ古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。現在の日本の文化芸術を牽引するトップランナーのひとり。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、毎日芸術賞千田是也賞、読売演劇大賞最優秀作品賞、観世寿夫記念法政大学能楽賞、松尾芸能賞大賞受賞。坪内逍遙大賞を受賞。石川県立音楽堂アーティスト・クリエイティブ・ディレクター。東京藝術大学・日本大学芸術学部客員教授。(公社)全国公立文化施設協会会長。

野村 裕基【狂言師】

1999年生。野村萬斎の長男。祖父・野村万作および父に師事。慶応義塾大学法学部卒業。能楽協会会員。「イデア狂言」主宰。3歳の時に『靉猿』で初舞台後、子方として国内外を問わず多数の舞台に出演。『三番叟』『奈須与市語』『釣狐』を抜き、「万作の会」の若手狂言師の一人として舞台を勤めている。舞台『ハムレット』(世田谷パブリックシアター、野村萬斎演出)でタイトルロールのハムレット役を演じ活動の場を広げている。

中村 鷹之資【歌舞伎俳優】

1999年 歌舞伎俳優・五世中村富十郎の長男として東京都に生まれる。学習院大学経済学部卒業。2001年『石橋』の文珠菩薩を勤めて初舞台。2005年『鞍馬山蒼鷹』の牛若丸で初代・中村鷹之資を披露。2013年より自身の勉強会「翔之會」を主宰。2020年に「三社祭」悪玉にて国立劇場奨励賞、2025年に「第九回翔之會」の成果で芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。映画『家族はつらいよ』『家族はつらいよ2』(山田洋次監督)に平田謙一役で出演。

望月 太左乃【邦楽囃子方】

1990年千葉県千葉市中央区生まれ。本名・佐野友紀。邦楽囃子を望月太左衛門に、能楽観世流太鼓を故・観世元伯師に師事。私立国府台女子学院中学・高等学校を経て、東京藝術大学音楽学部邦楽科邦楽囃子専攻卒業。同大学大学院にて能楽囃子修士課程を修了。国立劇場、国立能楽堂をはじめ日本各地の劇場で演奏活動を行うほか、大河ドラマやNHK-FMなどに出演。日独150周年記念Japan day、日韓国交樹立150周年記念演奏、フランス等での海外公演にも参加。また、新作歌舞伎・CM・アニメ音楽等の録音にも携わる。稀音家浄観賞、市川市新人演奏家コンクール優秀賞、千葉市芸術文化新人賞を受賞。(社)長唄協会会員。東京都キッズ伝統芸能体験講師。学習院中等科非常勤講師。

山下 一史【指揮】

桐朋学園大学を卒業後、ベルリン芸術大学に留学、ニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで優勝。カラヤンが亡くなるまで彼のアシスタントを務める。その後ヘルシンボリ響首席客演指揮者を務めた。日本国内ではN響を指揮してデビュー、以後主要オーケストラに定期的に出演、好評を得ている。これまでにアンサンブル金沢プリンスパル・ゲスト・コンダクター、九響常任指揮者、大阪音大ザ・カレッジ・オペラハウス管常任指揮者ならびに名誉指揮者、仙台フィル指揮者ならびに正指揮者を歴任。シューマン作曲歌劇「ゲノフェーファ」日本初演など、オペラ、オーケストラの両面においてますます注目を浴びている。千葉交響楽団音楽監督、愛知室内オーケストラ音楽監督、大阪交響楽団常任指揮者。東京藝術大学音楽学部指揮科教授として後進の育成にも取り組んでいる。

千葉交響楽団【管弦楽】

千葉交響楽団は、1985年に「ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉」として発足以来40年間、県内唯一のプロのオーケストラとして、音楽文化の創造・発展を使命とし、地域に根差した音楽活動が続けている。定期演奏会・特別演奏会をはじめ、県民芸術劇場や各地での演奏会など、毎年およそ60回のコンサートで演奏し、千葉県の音楽文化の向上に努めている。また、千葉県及び各市町村教育委員会との共催事業である「小中高等学校音楽鑑賞教室」や特別支援学校への訪問演奏を、年間80校ほど実施し、児童生徒に生のオーケストラの持つ素晴らしいハーモニーと迫力を届け、音楽教育にも多大な貢献を果たしている。2016年4月からは山下一史氏を音楽監督に招聘し、同年10月に名称を千葉交響楽団に改め、同氏の指導のもと演奏水準のさらなる向上に取り組み、その新鮮で熱気あふれる演奏は高い評価を得ている。より多くの千葉県民に「おらがまちのオーケストラ」と親しみを持って呼ばれ、県民が誇れるオーケストラを目指して着実に歩みを進めている。

交通アクセス

千葉県文化会館

〒260-8661 千葉市中央区市場町11番2号

★JR千葉駅から／千葉都市モノレール「県庁前」行き乗車、「県庁前」駅下車徒歩約7分
千葉駅東口7番乗り場から京成バス千葉イースト「大学病院」行き、
「郷土博物館・千葉県文化会館」下車徒歩約2分

★JR本千葉駅から／徒歩約10分

★京成千葉中央駅から／徒歩約20分

※駐車台数に限りがございますので、公共の交通機関をご利用ください。

